

## 生き方について共に考える授業実践

—Unit6 Striving for a Better World と BLM 運動—

森阪 美文

今年度の英語科の目標は「主体的に英語で自分の考えや気持ちを伝え合う生徒の育成」である。本単元では、ミャンマーの民主活動家アウンサンスーチー女史の話を扱う。最初に、グループでノーベル平和賞受賞者らについて班で調べ英語で発表し、次にミャンマー国民のために生きることを選んだアウンサンスーチー女史の生き方や、大坂なおみ選手の BLM 運動への関わりについて考えた。様々な国、年齢、立場の人々の生き方を考える過程において、間違いを必要以上に気にせず、自由に意見を交換し深め合うことができたと思う。この後、単元で学んだことを生かしながら、自分の生き方について考えをまとめ話し合わせたい。

### 1. 学びの実際

#### (1) 写真の人達を英語で紹介しよう (第1・2時)

Unit6 の Starting Out はベーカー先生がアメリカで買った本を紹介するところから始まる。教科書のページにはアウンサンスーチー女史を含めた5人の写真が載っている。名前も、何をした人なのかも書かれていない。

教師：写真の人たちの共通点は何？

生徒A：全員ノーベル賞を取った人。

生徒B：全員外国人。

生徒C：みんな若くない。

(Unit6 Activity「尊敬する人物」のページに写真を見つけて)

生徒D：ここには日本人もいる。

教師：確かに。ここにはいないけど、若い日本人で、今年、人権運動でがんばっているスポーツ選手知ってる？

(反応がないので、テニス部の生徒数名を指名する)

教師：みんな何部やったっけ？

生徒E：あっ、わかった。大坂なおみや。

そこで、この Unit では教科書に写真が紹介されている人物に加え、最近話題になった大坂なおみ選手についても授業で考えていこうと伝えた。写真の人物は生徒が調べて発表し、大坂選手については ALT のアリソン先生と一緒に考えていくことを付け足す。調べる人物については、重ならないよう班同士で話し合い6人をどの班が発表するかを決定した。

第1時の後半と第2時前半で発表原稿づくり、第2時後半で発表用ポスターづくりを行った。レポー

ト作成が開始してしばらく経っても、i-pad で調べた説明のどの部分を使ってまとめてよいかわからない班がほとんどだった。

教師：ワンガリ・マータイなら、どんなキーワードがある？

生徒C：グリーンベルト運動は？

教師：おっ、いいキーワードだね。じゃ、グリーンベルト運動はどんな運動？

生徒E：木を植える運動。

教師：誰がどれくらい？どんな風に？

生徒E：…

教師：そこを詳しく調べて発表できるといいのー。

まずはキーワードを見つけ、どれを深めるかを考えるとよいことを全体に伝えた。

山中伸弥氏の班では ips 細胞を使えばよいのかはわかるが、その説明をどうするかで悩んでいた。

生徒：ips 細胞のことどうやって書けばいいかわからん。

教師：ips 細胞が何に役立つか簡単な英語で言えんか？

結局 ips 細胞の部分は私とともに考えたが、それ以外は自分達だけで内容を工夫した。山中氏の苦いエピソードや ips 細胞を開発するに至ったきっかけについて、習った表現を用いて彼らなりの説明を試みたのである。

He started as a medical intern in 1987. He was happy at first, but he was called “Jamanaka” by his instructor. When he saw patients who pained as sickness, he thought, “I want to help before I die.” Finally, he developed ips cells. I want to help people like him.

また、マザー・テレサの班は、彼女の残した言葉を具体的に紹介し、最後に自分たちの感想を述べた。

This is Mother Teresa. She was born in 1910. She is from Skopje. She worked for poor people. She is a nun who left a lot of quotes. For example, "Let us always meet each other with smile, for the smile is the beginning of love. "Kind words can be short and easy to speak, but their echoes are truly endless." We think we want to be like her.

オードリー・ヘップバーンの班は、ユニセフ親善大使としての活動をどう表現するか悩んでいるところで授業が終わってしまった。「できた範囲で発表すればいいよ」と声かけた。ところが、次の発表授業の前にB子が「先生、続きの部分書いたんです」と言って完成した文章を見せてくれた。最後の( )の部分が後で付け足した文章である。

This is Audrey Hepburn. Do you know her? She starred the movie of "Roman Holiday." — 省略 — So, she won many prizes such as Academy Awards, Golden Globe Award. Then she became a famous actress around the world. She also became the UNICEF Goodwill Ambassador because she was helped by UNICEF staffs. After that she visited developing countries and ( tried to help many children there.)

「helped とせず tried to help としたのがいいね」と伝えたら B 子はいっこりほえんだ。発展途上国で子ども達を必死で助けようとするヘップバーンの姿がどうしたら伝わるか彼女なりに考えたのだろう。

## (2) 発表内容を振り返る (第3時)

ポスターを用いて発表を行った後、他の班の発表原稿を見て、互いの発表を振り返った。具体的にはよい表現とその理由、内容をさらによくするためにどう直したらよいかを英語で言った。そして、1相手の発表内容をより深く理解し、2英語の文章についての意見を英語でやり取りすることで、英語を使う必然性に気づき、3互いの語彙や表現方法を学び合って表現の幅を広げる、ことができたと思う。

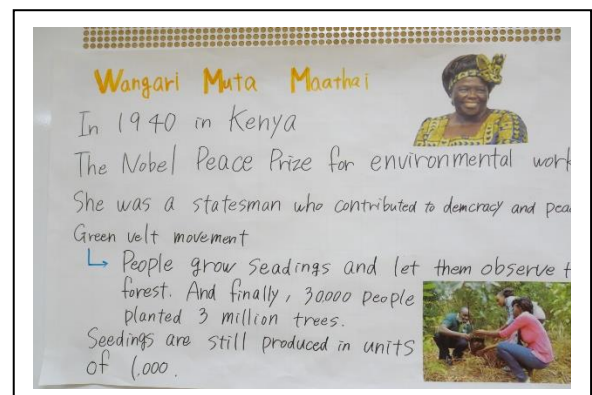
アドバイスは班の番号順で行った。例えば、1班の発表に対し、2班、3班、4班…の順でアドバイ

スした。班員が全員交代でアドバイスをを行った。

生徒A：(マザー・テレサの班に対して) We think that 「 We think we want to be like her.」 is a good sentence because you can say your opinion in the end.

生徒C：We can imagine her life through her quotes, but If you also talk about what she did for people, your report will become better.

生徒D：(ワンガリ・マータイの班に対して) We can understand easily why she won the Nobel Prize from 「 In 2004, she won the Nobel Peace Prize for environmental work.」



## [ ワンガリ・マータイの発表ポスター ]

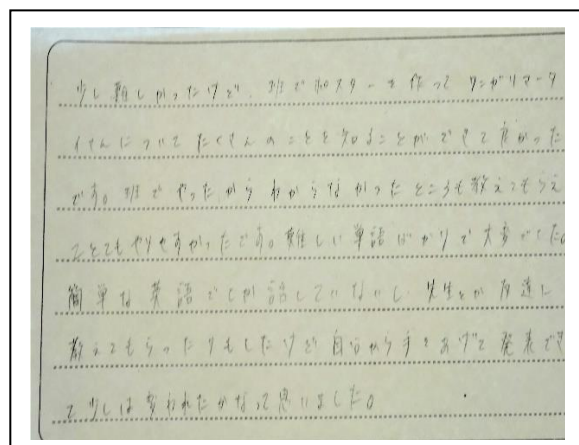
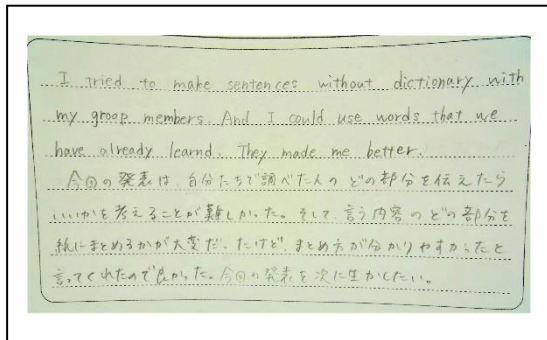
生徒E：(山中伸弥の班に対して) We want to know why Mr.Yamanaka was called Jamanaka.

生徒F：(オードリー・ヘップバーンの班に対して) We think that 「such as Academy Awards, Golden Globe Award.」 is good because we can understand she is a great actress from it, but we want to know more about her work as UNICEF Ambassador.

途中困ったことが起きた。それは、アドバイスしたい内容を、最初の班が言ってしまい、後の方の班の生徒は「～班に賛成です」と言った後に同じ意見を繰り返すだけで言うことがなくなってしまったのである。生徒の表情にも物足りなさが感じられた。そこで急遽、挙手発表に切り替えることにした。すると、それまで後の発表順だった班の生徒は真っ先に手を挙げ、次々と挙手が続いた。

最初、私は英語でのアドバイスは生徒達には難しいと考えていた。そして、自分の番がわかっている

と少しは安心して発表できるから順番を決めておこうと思ったのである。しかし、それは逆効果だった。自ら手を挙げ英語で意見を述べる生徒達の姿は実に生き生きとしていた。以下は第3時の最後に書いた生徒感想の一部である。



## (2)ALT と共に考える (第4時)

まず、1週間前に、アリソン先生と私で授業について簡単な打ち合わせを行った。最初、私はBLM運動について大坂なおみ選手へのインタビューを使ってほしい、大坂選手の考えや目標に対してどう思うかを、Do you think a discussion is better than being loud? (声高に発信するより話し合いの方がよいと思うか) What goals have you set for yourself? (あなたはどんな目標を定めているのか) のような質問を使って生徒達に考えさせたいと自分の考えを述べた。しばらく考えた後、アリソン先生は別の方法を提案してくれた。生徒がALTと共に考えるためにはALT自身が納得しなくては行けないと思ったので、その方法で授業を行うことに決まった。具体的には、全

の班がワークシートに意見を書き込み次の班に回し、次の班が意見を書き込む方法を取った。そのことで、互いの考えがよくわかり、考えがより深まっていくと考えたのである。

当日は、まず最初アリソン先生がプレゼンテーションソフトで動画や写真、風刺画等を用いて問題提起を行った。その後、1枚ずつ異なった質問が書かれている6枚のワークシートに、制限時間内に自分の班の場所に考えを書き、時間が来たら次の班に回すというのを5回繰り返した。全ての質問と⑥の質問に対する各班(G1~G5)の意見を紹介する。

<ワークシート質問>

- ① Who is a Japanese person?
- ② Who is a foreigner?
- ③ At the supermarket, who did you choose? Why?
- ④ Is BLM important in Japan?
- ⑤ Naomi Osaka thinks BLM is good. Why?
- ⑥ What do you think of the police?

<⑥のワークシートに書かれた各班の意見>

「What do you think of the police?」

G6: Japanese police is good but American police is not good because they often kill black people.

G1: American police is not good but they are strong.

G2: American police is not good. They are dangerous because they kill black people. We can't understand them.

G3: Japanese police is good. We don't think foreign people have human mind.

G4: They look strong but a little scary because they have guns.

G5: Police must be fair to everyone. They mustn't kill a person recklessly.

最初の方の班は、日本の警官はよい、アメリカの警官は黒人を殺すからよくない、危険、理解できないと言う意見だったが、G2ではアメリカの警官は人間味がない、G4では銃を持っているから強いけれど怖い、G5では警官はすべての人に公平でなければならぬし、何も考えずに人を殺してはいけない、と警官のあるべき姿を考えるようになっている。



【スーパーで品物の場所を尋ねるのにどの人に聞か尋ねる場面】

また質問を考えやすくするために、例えば③の質問ではプレゼンにおいて、年配の白人、中年の白人男性、中年の白人女性、髪を青色に染めタトゥーを入れている若者、年配の黒人、中年の黒人の写真を黒板に貼り、あなたならどの人に声をかけるかを予め挙手させた。そして、その理由を後で班で話し合うよう伝えたのである。



【班で質問について考える場面】

1つの質問に5分程度で意見を書かなくてはいけないので、みんな必死になって考えていた。前の班の意見を見ながら自分達の意見を考えることで、考えの違いに気づき、さらに考えが深まったようだ。次から次にやって来る質問に途中で少しめげそうになる生徒もいたが、アリソン先生が近寄り英語で補助発問をしたり表現をアドバイスをしたりすると、再び懸命に考え始めた。

難しい内容になると机にうつぶせることのあったS君は、この時間、日本語ではあったが自分の意見をきちんと伝え、班の仲間と共に英語でどう言うかを考えていた。また、授業の感想でも「班を変えてポスターづくりをまたやってみたい」と書いていた。全ての生徒が主人公になれる授業とは何かについて考えさせられる実践であった。

第5時、授業の最初15分程度で、アリソン先生の授業について考えをまとめる時間を持った。第4時に全ての班が書いたものを見ながら、各自が短い英文で自分の考えをまとめた。次は大坂選手について書いた文章である。

○I think Naomi is a very kind person. Even if my platform was just like hers, I couldn't do like her. It's because I'm scared of such actions. She is strong.

However, I want to be fair to everyone.

○ I think Naomi's action is very good. She is a very good person. I think she wants to help people around the world.

(3) アウンサンスーチー女史の私生活 (第6時)

第5時でアウンサンスーチー女史の政治的生活について、第6時で私生活について考えた。スーチー女史は国民のため民主主義運動のリーダーとなる。軍事政権によりあわせて3度自宅軟禁の身となったにもかかわらず戦い続けた。その功績が認められノーベル平和賞を受賞する。しかし8年後、私生活において厳しい選択を迫られる。イギリス在住のイギリス人の夫ががんで余命宣告を受けるが、スーチー女史は決してイギリスに行くことはなかった。それはなぜか。生徒一人一人が考えワークシートに書いた。「軍事政権と戦い苦しい思いをしている国民を残すことができなかった」

「夫婦で決めたことだから」英文を読み生徒達はこの2つを答えた。本来ならこの後さらに「あなたがスーチー女史だったらどうするか、それはどうしてか」を話し合わせたかったが、表現等を押さえるのに時間をとってしまい、この時間を終えた。

(4) How will you live your life? (第7時)

第6時までの授業を通して様々な人の生き方について考えてきた。第7時では、「今後、自分自身はどのように生きていきたいと思うか」について英語でレポートを書いた。

授業の最初に“Who is your favorite person? And Why?”のトピックでチャットタイムを持った。他の3人の生徒と英語で意見交換後、「どのよ



うに生きていきたいか」自分自身について書く。全員にとって書きやすくするため、次の条件を出した。①書き出しを I will be a person who ～. か I will be a person like～. にすること、②自分の目標とする人物、自分自身の経験、人から言われた言葉等について詳しく書き、それをもとにどのように生きていきたいかとめることである。

以下に生徒のレポートを紹介する。

I will be a person who tries hard . I respect Ikee Rikako who is a swimmer. She became sick last year. However, she continued to fight against her sickness. So, she could recover. I think she is a very great human because she put in a lot of effort.

I practice swimming every day. When practice is hard, I give up. I want to be a person who never gives up.

Ikee Rikako is a top swimmer in the world. She is very strong and fast. I want to be like her. She always works hard. I think I want to always try hard, too.

I will be a person who is strong. Now, there is a lot of racial discrimination in America. It's a very big problem. I learned about the BLM movement in my English class. Naomi Osaka has been taking action for people who were killed by police officers. I think her actions have influenced people around the world. Her pictures are very strong. I sometimes give up before trying. First, I want to try everything and never give up. For example, now I'm studying very hard to enter high school. So, I want to keep studying and never give up!

#### (5) 互いのレポートについて英語で意見交換する

#### (第8時)

第2時に各班のポスターセッションについて、班で協力して意見交換を行った。第8時では、個人に対し、個人が英語で意見を述べる。よい表現や付け足すとよい内容や表現を、付箋に書き、班の中央におかれた拡大コピーしたレポートに貼り、全員にどの部分について述べているかわかるようにしてから、英語で意見を述べた。

また、活動が円滑に進むよう次のものも準備にした。具体的には、班全員のレポートをコピーして渡し、意見交換に必要な基本表現を模造紙で前に掲示した。班に1枚でなく、一人一人がコピーを持つことでじっくり文章を読むことができた。また、表現が前に掲示してあることで、読みあげるのではなく顔を上げて話すことができた。

当初の予定では、各班より1つのレポートについての意見交換の内容を、クラス全体に伝えるつもりであったが、意見交換自体が思った以上に時間がかかった。そこで、次の時間に、クラス全体へのシェアリングを行い、その後、単元全体において自分自身が学んだことや変化したことに振り返りを書くことにした。振り返りは英語でも日本語でもよいこととした。次に英語で書いた生徒の振り返りと日本語で書いた振り返りをあげる。

We learned about Aun San Suu Kyi and six people's lives. There were a political leader, an actress, and a medical scientist. So they look different. But they have the same point. They all strived for other people. They all hoped the peace in the world and the happiness of everyone. So I want to treasure other people, too. I could think about myself through learning their lives. And we introduced our own opinion in English with many sentences.

外国人に対しての接し方を変えたいなど思った。なぜなら今までは「英語がしゃべれないから」「初めて会った人としゃべるのは少し嫌だ」という理由で外国人がいても近寄ったりすることが

できなかった。だけど、今回の授業で、今黒人が差別されていることを知り、それは良くないと思ったけれど、私がしてきたことも軽い差別になっていると知ったから変えていかなきゃいけないと思った。もし、外国人と何か話す時は言葉でなく、ジェスチャーなどでも伝えることができるから恐れず話しかけてみたい。

## 2. 振り返り

当初の予定では、教科書のアウンサンスーチー女史の人生を扱ってから、班でノーベル平和賞受賞者についてのポスターセッションを行い、ALTとBLM運動について考え、個人で自身の生き方について考えをまとめ意見を述べ合う、といった順序で授業を行う予定であった。しかし、本校に週1回訪問するALTに本単元で3時間の授業をしてもらうために指導順を変える必要が出てきた。「英語によるポスターセッション」「BLMについて共に考える」「個人レポート作成の支援と添削」この3つはALTとのTTだったからこそ意味のある授業だと考えていた。

そこで、導入は少し工夫したものの、第1時よりポスターセッションの準備を行った。自分自身不自然だと感じながら行ったが、意外と、授業順を変えてもうまくいくことも今回わかった。順番にこだわらずのびのびと活動する生徒達の様子から、発想の転換の必要性を学んだ。

授業で、生徒達は互いの価値観を楽しみながら共有していた。幼い頃より取り組んできた水泳に引きつけて生き方考える者、外国人と自分とのコミュニケーションについて見直す者、お金持ちになって友達と一緒にお金を使いたい者、好きな音楽がいつも身近にある生活をしたい者、彼らは社会や地域のためにも生きたいが、それに加え、自身が心から楽しいと思える人生にしたいと考えている。本単元を通して、生徒同士が飾ることなく互いの価値観を共有していたことが何よりうれしかった。

最後に、今後改善していきたいことを2つあげたい。

1つめは活動班づくりについてである。第1時の活動班は、話し合いが進みやすいよう考慮して予め作った班であった。生徒のやる気を優先するなら個人が調べたい人物を選び、同じ人物を選んだ者同士が集まって班を作ることも大切だろう。教師の都合を優先し生徒の自己決定の場を奪っていなかったかと反省している。

2つめは、生徒の声をきちんと拾いたいと考えていたにもかかわらず、それがしっかりできていなかったことである。授業を進めることに気がとられ、丁寧な机間巡視と支援ができていなかったと思う。十分に生徒の声を聴くことでよりよい支援が可能となり、生徒同士の学びが深まる。規則的で偏りが最小になるよう、可能な限り全ての生徒と言葉を交わすよう心掛けながらよりよい協働学習支援を行えるよう、今後努めていきたい。

### 【引用文献】

木村 優・岸野 麻衣 編 「授業研究」新曜社  
2019.6.5

(文責 森阪 美文)